

- 1, 肺癌学会会員にアンケートを行い、1005 人から回答を得た。
アンケート内容：属性、学会の開催形式、託児所の必要性、会員限定おかせりなさいプログラムへの受講の有無や希望内容、女性理事や評議員の必要性の有無、疾患やメンタルの問題がある人への対処など。
- 2, アンケートの結果をもとに、理事会への要望書を提出。
A：総会で大学病院以外の医師や女性医師の座長や講演者への薦を会員数の男女比率、病院別比率程度に増やしてほしい。
B：学術集会のハイブリッド形式を残していただきたい。
C：女性理事の割合を最大女性評議員の比率になる程度(15:1)に増やしていただきたい。可能であれば選挙では女性1人以上3人以下、(理事の男女比が肺癌学会の評議員の男女比程度になるように)で投票するようにしていただきたい。
ただし、公平性をなるべく保つために男女混合の獲得票数で当選をきめていただきたい。クォーター制の意見もあったが今の状態では困難、理事になってバリバリできるような女性の人材は限られている。
- 3, 肺癌学会会員限定で you tube でおかせりなさいプログラムを作成した。
このプログラムは上記アンケートの結果より 2023 年度版の肺癌診療ガイドラインの変更、追加をまとめたものである。プログラムの趣旨は「産休、育休、大学院、留学など、医師が臨床現場を長期に離れる場合がある。臨床現場から離れていた医師へ最新ガイドラインのエッセンスを示し、復帰しやすい環境を設けることがこのプログラムの目的である。ダイバーシティーの観点からもこれらの医師が復帰しやすい環境をつくる必要があると考える。」であり、様々な理由で臨床現場を長期に離れた全ての医師に向けてであり、web 上で無料でいつでもどこでも視聴できることを目指した。